



知事と語る

◆日時／令和元年11月21日(木) ◆場所／キョイジヌフランセーズラ・シャンス

富山県知事 石井 隆一

石井知事と塾生によるランチトークを富山市のフレンチレストラン「ラ・シャンス」にて開催しました。はじめに、石井知事より「富山県をいきいきと働き暮らせる地域にするには、これまで以上に女性活躍推進を実現していかなければならない。そのためにもみなさんから率直な意見をいただきたい」という挨拶がありました。

塾生が自己紹介を行い、おいしい食事と楽しい会話で緊張がほぐれた頃に、知事への一問一答がはじまりました。

知事一問一答

Q 企業が成長しつづけるには、女性の管理職登用や男性の家事・育児参画に対する、経営者の意識変革が急務だと感じますが、知事はどのようにお考えですか。

A 生産年齢人口の減少の緩和策のひとつに女性の就業促進があります。そのためには長時間労働の是正と柔軟な働き方の導入が不可欠であり、時短勤務や育児休業をはじめとした各種制度の整備、リモートワークを可能にするICT技術の活用にくわえ、ワーク・ライフ・バランスがとれる企業風土の醸



成が求められます。

ワークライフバランスがとれる企業風土の醸成は、経営者の意識変革と行動実践によってもたらされるとの考えから、「イクボス企業同盟」と「ま」を設立し、加盟企業に「イクボス宣言」を発表してもらうというほか、今年4月に開催した「こやま県民活躍・働き方改革推進会議」では、「こやま働き方改革行動宣言」を発表し具体的な行動目標を策定しました。この行動目標を達成するべく、知恵を絞る努力を続ける企業については、表彰するとともにその活動内容を宣伝し、富山県の企業への働き方をより望ましいものに近づけていきたいと考えています。

また、長時間労働の是正と柔軟な働き方の導入のみならず、労働生産性の向上にも積極的に取り組む、地域経済の持続的成長を促進し、県民生活の水準を確保していくことも重要だと考えています。

Q プラスチックごみの問題が深刻化するなか、今後のプラスチック製品のありかた、また、富山県の海洋漂着物の大半が県内由来である事実について、知事はどのようにお考えですか。

A まずは、今後のプラスチック製品のありかたについては、プラスチックは焼却するとCO₂を排出するため気候変動の要因にもなります。ここ数年の自然災害の激甚化もそのひとつで、人類の生活の維持に危険信号が灯りはじめているのを感じます。とはいえ、

即座にプラスチックフリーを達成するのは困難なため、プラスチックの代替品となる素材の開発など、メーカーをはじめとした各企業の取組みに期待しています。



つぎに、富山県の海洋漂着物については、県内由来のものは約8割にのぼります。これほどまでに比率が高いのは、富山湾に突出した能登半島が、対岸諸国から流出したごみの侵入を阻むからです。とはいえ、ごみの総量は決して少なくないので、県民のみなさんの自覚を促すためにも、引き続きPRをしていく所存です。

来年7月から全国でプラスチック製レジ袋の有料化が義務づけられる予定です。富山県では全国に先駆けて約10年前から実施しており、いまではすっかり浸透していて、環境問題に対する意識が高い県民のみなさんが大勢いらっしゃることは、私の大きな誇りになっています。フレインな環境は、人を育む基盤となり、企業の創造的活動を促す基盤となるため、この好循環を継続させていければと考えています。

その後、せっかくの機会ということで、急遽、追加の質問を受け付けたところ、この日の知事のネクタイについて質問が飛び出しました。知事は、今年8月に閉店を迎えた高岡大和で、閉店日に奥様とこのネクタイを選び購入したというエピソードを披露し、会場は

和やかな雰囲気になりました。

終わりに塾生代表の高柳しのぶ会長が、「当塾で得た経験をいかし、企業と地域に貢献できるよう頑張っていきたい」と抱負を語り、アドバイザーの光地富子氏からは「塾生のみなさんを頼もしく感じる、同じくアドバイザーの高橋博子氏からは「来月の成果発表がとても楽しみにしている期待の声を、また、女性就業支援センター長の山口秀子氏からは「富山県とともに盛りあげていきましょう」という激励の声をいただきました。最後に知事から「志を抱く女性たちが集う当塾が、7期も続いてきたことは大変うれしい。いきいきと働き暮らせる富山県のために、みなさんもそれぞれの立場で尽力いただきたい」という言葉が贈られ、笑顔があふれるなかランチトークを終えました。



スキルアップコース

◆日時／令和元年7月26日(金) ◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

自分らしさを活かしたリーダーになる

竹之内 幸子 氏(株式会社Woomax 代表取締役)

7月26日、過去最多となる53名の塾生の参加のもと、「煌めく女性リーダー塾」スキルアップコースが開講しました。

第1回講義では、株式会社Woomaxの代表取締役である竹之内幸子氏を講師に迎え、グループワークをおとして、モチベーションをアップさせ、自身のキャリア戦略を考えました。

最初に「自己理解をする」として、心の奥に語りかけ感情と行動を紐解く自己内対話により、自分の特性や志向の言語化に挑戦しました。その際にでてきたマイナス要素については、視点・発想を転換し検証するリフレームによりプラス要素として受容し、新たな可能性として認識しました。さらに、これらの一連の作業により自己効力感を向上させることで、他者への感謝感情が生まれやすくなり、人間関係の安定化や向社会的行動の増加が望めることを学びました。

次に、「主体的キャリア観をもつ」として、自分のキャリア・アンカーを確認しました。キャリア・アンカーとは、キャリア選択時に拠りどころとなる価値観や欲求のことで、職能向上志向、経営管理志向、社会貢献志向など8つに分類されます。塾生たちはこれら8つの中から当てはまるものを選ぶとともに、Want(したいこと)・Can(できること)・Need(求められること)を明らかにして、時代や環境が変わり年齢を

重ねても、すぐれたエンプロイ・アビリティ(被雇用能力)を発揮しつづける一助となりました。

最後に「なりたい自分を明確にする」として、最高の3年後を想定しました。ワークとライフのビジョンを、重視したい外的・内的キャリアや準拠したい成長目標軸から描き、塾生同士でインタビューしあうことで膨らませ、価値観の言語化・実行化とその繰り返しによる成長サイクル構築のきっかけづくりとしました。

1日の講義を終えた塾生からは、「仕事のモチベーションアップにつながった」「上司と部下の架け橋となれるようなリーダーになりたい」など、前向きな声が寄せられました。



スキルアップコース

◆日時／令和元年9月11日(水) ◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

リーダーとしてのコミュニケーション ~チーム力UPのためのスキル~

宮永 満祐美 氏(株式会社office・CanDo 代表取締役)



第2回講義では、実践的なコミュニケーションスキルの向上を図りました。

リーダーとしてチームに影響を及ぼすには、NLP(Neuro Linguistic Programming)、つまり感覚と

言語をどのように使うか考え、コントロールすることが大切であり、これにより他者への影響力を高め、効果的なコミュニケーションが可能となります。

まず、塾生は会話の中で相手との共通点を作り、ラポール(信頼関係)を築くスキルを学びました。口調を同町させるペーシング、言葉を反復するバックトラック、仕草を模倣するミラーリングを学び、ペアワークをおし実践することでその効果を実感しました。

次に、感覚の得意不得意について学びました。人は視覚優位・聴覚優位・体感覚優位の3タイプに大きく分かれ、相手の感覚にあわせることでより円滑にコミュニケーションが可能になることを学びました。

塾生は、相手が大切にしている価値観や信念を肯定しながら相手の意欲を引き出す方法を実践することで、コミュニケーションスキルの向上に手応えを感じているようでした。

スキルアップコース

◆日時／令和元年9月25日(水) ◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

修了式

2日間の講義、アクションラーニングとの共通講座であるアドバイザー講話を終え、スキルアップコースのカリキュラムが終了しました。修了式では、アドバイザーの光地富子氏からは、「当塾で得た気づきと養った気持ちを大切にしながら、できること・やりたいことを整理してほしい」、同じくアドバイザーの高橋博子氏からは、「塾生との情報交換、会社への報告、自分への自信を忘れず、女性活躍をさらに推進してほしい」とのエールをいただきました。

つぎに、塾生代表挨拶として、小川綱代会長から「3年後、なりたい自分になっていられるよう、1日1日頑張っていきたい」との抱負が語られ、晴れ晴れとした雰囲気満ちるなか、修了式を終えました。

